



Title	「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」
Author(s)	公益社団法人日本WHO協会
Citation	目で見えるWHO. 2014, 55, p. 7-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86693
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」

公益社団法人 日本WHO協会

2014年世界保健デーのテーマには「節足動物媒介感染症」がとりあげられました。国内でもマダニによる重症熱性血小板減少症候群SFTSの症例が増えつつあります。マラリアやデング熱等についても、人々の海外勤務や旅行の機会は益々増大しており、気候変動等による疾患流行地域の広がりも相まって、今後罹患リスクが高まってくる実情にあります。

昆虫等の節足動物が媒介する感染症(ベクター伝播疾病)とその予防についての正しい知識をお伝えし、世界保健デーテーマ選定の意義や背景をふくめWHOへの理解を深めて頂くため平成26年6月13日に大阪歴史博物館の第1研修室で「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」をテーマとしてフォーラムを開催いたしました。まず、「世界保健デーテーマの意義」を当協会の関淳一理事長より説明しました。大阪市立大学及びカリンスカ研究所の金子明教授には「地球規模マラリア根絶への挑戦」と題し、大阪市立総合医療センター感染症センターの後藤哲志部長には「海外帰国者の感染症罹患の現状」と題してご講演いただきました。なおファシリテーターを当協会の中村安秀理事が勤めました。

なお、このフォーラムは大阪府医師会・大阪府歯科医師会・大阪府薬剤師会の後援、大日本除虫菊株式会社の協賛で開催致しました。